

別表3-2

社会教育主事に関する専門教育科目

授 業 科 目		授 業 単 位			備 考
		必修	選択	計	
生涯学習概論		4		4	
社会教育計画		4		4	
社会教育 演習	ライフステージと生活課題	2		2	人生設計論を含む
	体育・スポーツ・レクリエーション	2		2	
	小 計	4		4	
社会教育 特講Ⅰ	国際化と社会教育	2	2	2	
	青少年問題と社会教育		2	2	
	小 計	2	4	4	
社会教育 特講Ⅱ	社会教育行政	2	2	2	
	図書館概論		2	2	
	ボランティア活動		1	1	
	小 計		2	5	5
社会教育 特講Ⅲ	マスコミュニケーション論	8	2	2	
	社会福祉論		4	4	
	教育原理		2	2	
	社会心理学		2	2	
	小 計		8	10	10
合 計		24	19	31	

科目名	生涯学習概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：生涯学習は、学校教育、家庭教育や社会教育における学習を含めた大きな広がりを持つ概念である。本講義では、生涯学習に関する以下の項目について基本的な知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育の本質と意義 ・社会教育の法と行政および施策 ・学校教育・家庭教育等との関連 ・社会教育施設の役割と機能 ・専門的職員の役割 ・学習活動への支援のあり方 <p>学生の学習成果：専門的学習成果としては、上記の基礎的知識を修得する。汎用的学習成果としては、①コミュニケーション能力、②社会教育に携わることを志す者として自ら主体的に学ぶ姿勢や態度を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で行うが、受講生の興味関心に応じて、グループディスカッションなどの活動を行うこともある。 ・受講者の理解を促進させるため、小テスト、課題を課す。 	<p>予習・復習</p> <p>1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業でポイントを示す。</p>	<p>テキスト</p> <p>伊藤俊夫・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい、2010年。</p>			
成績評価の方法	<p>達成基準：以下の6つの項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習・社会教育の本質と意義を理解する。 ②社会教育の法と行政および施策について理解する。 ③学校教育・家庭教育等との関連について理解する。 ④社会教育施設の役割と機能を理解する。 ⑤専門的職員の役割、学習活動への支援のあり方について自分の意見を持つことができる。 ⑥他者の異なる視点からの意見も考慮した上で、自分の意見を表明することができる。 <p>学習評価は、試験 (60%)、小テスト・課題 (40%) によって行う。課題は授業中に提示する。なお、遅刻2回につき欠席1回とみなし、欠席1回につき減点1とする。また、授業態度に問題があった者も場合に応じて減点の対象とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>関口礼子他『新しい時代の生涯学習 [第2版]』有斐閣、2009年。 佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。 それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 授業概要と評価方法、本講義のルールの説明 生涯学習とは何か 【予習】教科書 1-11 頁
2 回	生涯学習・生涯教育論の展開 【復習】教科書 1-11 頁 【予習】教科書 12-27 頁
3 回	生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 【復習】教科書 12-27 頁
4 回	生涯学習と学校教育 【復習】配布プリント
5 回	生涯学習を支える学習機会 【復習】配布プリント
6 回	生涯学習振興施策の立案と推進 【復習】配布プリント 【予習】教科書 33-45 頁
7 回	わが国における社会教育の意義・発展・特質 【復習】教科書 33-45 頁 【予習】教科書 51-63 頁
8 回	社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携 【復習】教科書 51-63 頁 【予習】教科書 64-69 頁
9 回	自治体の行財政制度と教育関連法規 【復習】教科書 64-69 頁 【予習】教科書 103-119 頁
10 ・ 11 回	社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供・学習相談） 【復習】教科書 103-119 頁
12 回	学習への支援と学習成果の評価と活用 【復習】配布プリント 【予習】教科書 85-101 頁

13 回	社会教育施設・生涯学習関連施設の役割と機能 【復習】教科書 85-101 頁 【予習】教科書 124-127 頁
14 回	社会教育指導者の役割 【復習】教科書 124-127 頁
15 回	全学習内容のまとめ

科目名	生涯学習概論 2nd (社会教育主事)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：生涯学習について、以下の諸点に関する基礎的知識の定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達とその諸課題 2. 家庭・学校・地域社会における教育・学習活動 3. 生涯学習支援施設としての図書館の機能 4. まちづくりの理念、構造、方法、実践 <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、上記の項目に関する基礎的知識や考え方を修得する。汎用的学習成果として、①専門的知識を使用して論理的に思考する力、②自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力、③社会教育に携わることを志す者として、また一社会人として教育や地域づくりについて真摯に考える姿勢・態度、を涵養する。</p>						
	教育方法	<p>①(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、個人発表、および質疑応答を授業の主要な構成要素とする。 2. 各受講生(個人ないしグループ)が担当する箇所を決め、当該箇所について、受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う。レジュメは早期に作成し、発表までに一度は担当教員のチェックを受けること。 3. 発表をもとに、質疑応答を行う。また、以上の内容を補う講義をする。 					
学習評価の方法	予習・復習	1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で示す。					
	テキスト	菅谷明子著『未来をつくる図書館』岩波書店、2003年。					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習の観点から、人間の発達とその諸課題について理解する。 ②生涯学習の観点から、家庭・学校・地域社会における教育・学習活動について理解する。 ③生涯学習支援施設としての図書館の機能を理解する。 ④生涯学習の観点から、まちづくりの理念、構造、方法、実践について理解する。 ⑤教科書の担当箇所について、ポイントを的確にとらえたレジュメを作成・発表できる。 <p>学習評価は、学期末試験(60%)、レジュメ発表(20%)、小テスト(20%)により行う。 なお、遅刻2回につき欠席1回とみなし、欠席1回につき減点1とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>山本思外里著『大人たちの学校』中央公論新社、2001年。</p> <p>田村明著『まちづくりの実践』岩波書店、1999年。</p> <p>それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション：授業概要と評価方法を説明 前期「生涯学習概論 1st」の復習
2 回	発達段階に応じた学習 ・人生の発達段階に応じた学習について考える。 レジュメ作成の手順・発表への心得 【復習】配布プリント 【予習】『大人たちの学校』1-64 頁
3 回	成人の学習について考える（1） ・学習を愉しむ（第1章） ・何を学ぶのか（第2章） 【復習】『大人たちの学校』1-64 頁 【予習】『大人たちの学校』65-135 頁
4 回	成人の学習について考える（2） ・「習う」から「教える」へ（第3章） ・カルチャーセンターと生涯学習行政（第4章） 【復習】『大人たちの学校』65-135 頁 【予習】『大人たちの学校』137-170 頁
5 回	成人の学習について考える（3） ・新しい教養人の誕生（第5章） 【復習】『大人たちの学校』137-170 頁 【予習】『未来をつくる図書館』1-23 頁
6 回	図書館の持つ可能性を探る（1） ・図書館で夢をかなえた人々（序章） 【復習】『未来をつくる図書館』1-23 頁 【予習】『未来をつくる図書館』25-90 頁
7 回	図書館の持つ可能性を探る（2） ・新しいビジネスを芽吹かせる（第1章） ・芸術を支え、育てる（第2章） 【復習】『未来をつくる図書館』25-90 頁 【予習】『未来をつくる図書館』91-149 頁
8 回	図書館の持つ可能性を探る（3） ・市民と地域の活力源（第3章） 【復習】『未来をつくる図書館』91-149 頁 【予習】『未来をつくる図書館』151-217 頁

9 回	<p>図書館の持つ可能性を探る（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営の舞台裏（第４章） ・インターネット時代に問われる役割（第５章） <p>【復習】『未来をつくる図書館』151-217 頁 【予習】『未来をつくる図書館』219-230 頁</p>
10 回	<p>図書館の持つ可能性を探る（５）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の図書館を「進化」させるために <p>【復習】『未来をつくる図書館』219-230 頁 【予習】『まちづくりの実践』1-51 頁</p>
11 回	<p>まちづくりについて考える（１）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の「まちづくり」（序章） ・「まちづくり」の実践（第１章） <p>【復習】『まちづくりの実践』1-51 頁 【予習】『まちづくりの実践』53-118 頁</p>
12 回	<p>まちづくりについて考える（２）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の価値発見（第２章） ・価値の創造（第３章） <p>【復習】『まちづくりの実践』53-118 頁 【予習】『まちづくりの実践』119-162 頁</p>
13 回	<p>まちづくりについて考える（３）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が「まち」をつくるのか（第４章） ・「まちづくり」の構造（第５章） <p>【復習】『まちづくりの実践』119-162 頁 【予習】『まちづくりの実践』163-206 頁</p>
14 回	<p>まちづくりについて考える（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」の実践のヒトとシクミ（第６章） ・「まちづくり」の実践の力（第７章） <p>【復習】『まちづくりの実践』163-206 頁</p>
15 回	<p>まとめ:これまでの学習内容の総復習</p>

科目名	社会教育計画 1st (社会教育主事)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美		
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M 棟 410 随時									
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>「生涯学習社会」において、住民の主体的学習を保障・支援するためにどのような社会教育計画が求められているのか。本講義では、政策レベルから個別の学習プログラムに及ぶ社会教育計画の理論と実践について、以下のような基礎的知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進施策の意義と体系 ・多様な学習者の特性、学習支援者の役割 ・学習情報の提供、学習相談の意義 ・生涯学習の観点からのまちづくり <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果としては、社会教育計画に関する上記の基礎的知識を理解・修得する。汎用的学習成果としては、論理的思考力、他者理解力を身につける。</p>								
	教育	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式によって行う。受講生の興味関心に応じてグループディスカッション等の活動を行うこともある。 ・受講者の理解を促進するために、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組むレポート課題を課す。 					方法	予習・復習
	テキスト	佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。							
学習評価の方法	<p>達成基準 : 以下の学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯学習推進施策の意義と体系について基礎的知識を修得する。 ②様々な学習者の特性、学習支援者の役割を理解する。 ③学習情報の提供、学習相談の意義を理解し、現状と課題を認識する。 ④生涯学習の観点からのまちづくりの現状と課題を認識する。 <p>学習評価は、最終試験 (60%)、小テスト (20%)、課題 (20%) によって評価する。課題は授業中に提示する。なお、遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席 1 回につき減点 1 とする。</p>								
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>関口礼子・小池源吾他著『新しい時代の生涯学習 (第 2 版)』有斐閣アルマ、2009 年。</p> <p>そのほか、授業中に適宜紹介する。</p>								

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション ・講義概要と評価方法の説明
2 回	生涯学習推進計画と社会教育計画とのかかわり 【復習】配布プリント
3 回	生涯学習推進計画の企画・立案の概要 【復習】配布プリント
4 回	生涯学習推進の組織、推進体制 【復習】配布プリント
5 回	生涯学習と学習者（1） ノールズのアンドラゴジー論を中心に、成人学習者の特性および課題について考える。 【復習】教科書 83-89 頁
6 回	生涯学習と学習者（2） 学習者の中でも特に生涯学習の完成期にあたる高齢者の特性および課題について考える。 【復習】教科書 90-94 頁
7 回	生涯学習と支援者・指導者（1） 生涯学習における支援者・指導者の位置づけや、学習活動の進展に応じた役割について考える。 【復習】教科書 95-102 頁
8 回	生涯学習と支援者・指導者（2） 支援者・指導者の類型と養成・研修について学ぶ。 【復習】教科書 102-108 頁
9 回	生涯学習と指導者・支援者（3） 社会教育主事に何が期待されているのか。高度化する社会教育主事養成について学ぶ。 【復習】配布プリント

10 回	生涯学習情報の提供と学習相談（1） 学習情報とは何か、学習情報提供の動向について学ぶ。 【復習】教科書 162-170 頁
11 回	生涯学習情報の提供と学習相談（2） 情報社会における学習情報の内容や方法について学び、学習情報提供と学習相談の課題を考える。 【復習】教科書 170-176 頁
12 回	生涯学習のまちづくり施策の展開（1） 生涯学習のまちづくりの展開について、1週目は各種答申をもとに行政施策の歴史と概要を学ぶ。二週目は具体事例に基づき、地域レベルでのまちづくりの現状と課題を考える。 【復習】教科書 57-63 頁、配布プリント
13 回	生涯学習のまちづくり施策の展開（2） 生涯学習のまちづくりの展開について、具体事例に基づき、地域レベルでのまちづくりの現状と課題を考える。 【復習】教科書 63-69 頁、配布プリント
14 回	生涯学習成果の評価と認証 【復習】教科書 177-191 頁
15 回	まとめ：これまでの授業内容の総復習

科目名	社会教育計画 2nd (社会教育主事)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野 裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : [e-mail] yfukuno@owc.ac.jp M棟 410 随時							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>前期「社会教育計画」で学んだ基礎的知識をもとに、より具体的な学習プログラムを企画立案・運営するための実践的な力量を育成する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果としては、学習プログラムの企画・立案、実施の具体的手法を修得する。汎用的学習成果としては、①コミュニケーション能力、②他者の主体的学習を支援する社会教育関係者としてふさわしい態度や自己管理能力を身につける。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義と参加型学習を組み合わせながら行う。 ・授業中に課題を出し、授業時間を複数回使って取り組む。 					
成績評価の方法	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業に対して予習・復習が必要である。その内容は毎回の授業で示す。 ・課題遂行のため、授業時間外に各自で調べ物をし、作業を進めることを求める。 					
	テキスト	特に定めない					
注意事項	<p>達成基準：下記の項目について、同等の比重をかけて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育調査に関する基礎的知識を修得する。 ・学習プログラムの企画立案・運営・評価に関する基本的知識を修得する。 ・アンケートを作成することができる。 ・学習プログラムを作成することができる。 ・参加型学習の意義について理解し、いくつかの手法を実践することができる。 <p>学習評価は、期末試験 (50%)、課題 (50%) によって行う。なお、受講者の興味関心に応じて、課題の内容は変更される場合がある。</p> <p>遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席は 1 回につき減点 1 とする。</p> <p>正当な理由なく提出物が遅れた場合についても減点 1 とする。</p>						
参考図書等	<p>廣瀬隆人他『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方～「参加」から「参画」へ～』ぎょうせい、2000年。</p> <p>それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション：講義概要と評価方法の説明 ・前期「社会教育計画」の復習
2 回	社会教育調査（1）～社会教育調査とは何か、調査方法の概要～ 【復習】 配布プリント 【課題】 インターネット等を利用して、アンケートの具体例を収集する。
3 ～ 5 回	社会教育調査（2）（3）（4）～アンケート作成～ 【復習】 配布プリント 【課題】 授業中の指摘を踏まえてアンケートを修正する。
6 回	学習プログラムの「企画・立案」力 【復習】 参考図書 14-19 頁
7 回	学習プログラムの「デザイン」力（1） 【復習】 参考図書 20-25 頁
8 回	学習プログラムの「デザイン」力（2） 【復習】 参考図書 26-43 頁
9 回	参加型学習のすすめ方 【復習】 参考図書 46-63 頁
10 回	参加型学習アクティビティの展開（1）～ディベート、KJ法、ブレインストーミング等～ 【復習】 参考図書 64-71 頁
11 回	参加型学習アクティビティの展開（2）～ロールプレイ、フィールドワーク、シミュレーション、アイスブレイク等～ 【復習】 参考図書 72-91 頁

12 回	<p>学習プログラムの作成（1）～学習プログラムの企画・立案の視点・手順の概要～</p> <p>【予習】県や市、公民館等の広報紙やインターネットを用いて、どのような学習プログラムが実施されているかを調べる。</p> <p>【課題】・各自が関心のある学習プログラムを作成する。 ・自治体の生涯学習推進計画や社会教育計画、各種データを収集する。</p>
13 回	<p>学習プログラムの作成（2）</p> <p>【課題】授業中の指摘を踏まえて、学習プログラムを修正する。</p>
14 回	<p>学習プログラムの作成（3）～学習プログラムの発表・質疑応答～</p> <p>【復習】配布プリント</p>
15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習社会実現にむけた社会教育計画、魅力的な学習プログラムとは ・まとめ：これまでの学習内容の総復習

科目名	ライフステージと生活課題	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡
質問受付の方法(e-mail, オフィスアワー等) : osaki@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】この授業は「現代人が“ライフステージ”すなわち人生の各段階で、“生活課題”すなわちどのような発達の危機に直面するか。そしてそれら乗り越えていくなかでどのような徳を獲得し、人間的に成熟していくのか」ということについて基本的知識を社会教育という文脈において身に付けることを目標とする</p> <p>【学生の学習成果】(専門的学習成果:社会教育にたずさわる者としてのライフサイクル学・ライフヒストリー学に関する基本的な「知識・理解」、汎用的学習成果:社会人として生きていくうえでの「信念・意見・価値観・態度」)</p> <p>現代人における人生の諸段階、各段階において直面する発達の危機、危機を乗り越えたときに獲得される徳、人間的成熟について概観できるようになっている</p>						
教育方法	授業の進め方	(講義) 担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、社会教育主事任用資格取得に特化された受講者なので対話によって各自の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。					
	予習・復習	1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については毎回の授業でポイントを示す					
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。					
学習評価の方法	<p>【達成基準】</p> <p>① 現代人における人生の諸段階、各段階において直面する発達の危機、危機を乗り越えたときに獲得される徳、人間的成熟について概観できるようになっていること</p> <p>② 人間の一生に関して、ライフサイクル学あるいはライフヒストリー学的な観点から、適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 社会科学性(すなわち思考の客観性、社会的な関心性) 題材の選び方・題材の切り口(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>2. 人間学性(思考の個性、主体性、内面性) 題材の選び方・題材の切り口(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容(秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>【評価方法】</p> <p>筆記試験。1,000字の論述を課する(90%) 提出物:試験前に受講者各自の「人生の諸段階、発達の危機、徳の獲得、人間的成熟」への興味関心の発達度を確認する(10%) 欠席回数×(-2)点</p>						
注意事項	参考図書は各回ごとに指示する						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【ガイダンス】教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。なお幼児教育学科は最初の社会教育関係の授業なので社会教育の世界(社会教育施設、社会教育主事など)を具体例をあげて紹介する。</p> <p>【導入】「ライフサイクル」「ライフステージ」とは</p> <p>【参考映像】NHK大河『花神』(吉田松陰は人間の一生を四季に例えた)</p>
2 回	<p>【ライフサイクル、ライフステージとは】人間の一生をライフサイクル、ライフステージという視点から見ることの意味、思想性、そして可能性を探る。又、それらとは異なる視点「ライフヒストリー」についても考える。</p> <p>【参考文献】『論語』孔子、『お気に召すまま』シェークスピア</p> <p>【参考映像】「人間 50 年…」(信長がお気に入りであった“敦盛”を見る。演ずるは『徳川の女』では加藤剛、『利家とまつ』では反町隆史など)</p>
3 回	<p>【現代人トピックス(未婚率と青年期延長)】青年後期は大人としての実力が厳しく試される時期である。それだけに挫折感、絶望感は深刻である。また人生のパートナーと出会い、子供を生し、家族を形成する人も多い。青年期の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな「徳」が獲得されるのかを確認する。</p> <p>【参考映像】フジテレビドラマ『やまとなでしこ』(「女性の最高値(さいたかね)は 27 歳」なのか?)</p>
4 回	<p>【現代人トピックス(未婚率と青年期延長)②】</p> <p>【参考映像】NHKドラマ『トップセールス』(男は大晦日まで、女はクリスマスケーキまで…といわれた時代)</p>
5 回	<p>【青年前期の発達課題(モラトリアム、青年期と不適合、スチューデントアパシー)】青年前期は学業、恋愛、仕事探し、経済的自立…などの悩みに直面し、やがて青年後期のステージへと移行する。</p> <p>【参考映像】驚きもの木 20 世紀『もうひとりのかぐや姫』(1970 年代の日本人の青春)</p>
6 回	<p>【タナトロジー(死について考える学問)】かつては医療や福祉の現場で「死」を論ずるなど“きちがい沙汰”であった。しかし現在では医療や福祉に従事するものの必須科目になっている。</p> <p>【参考文献・参考映像】大原健士郎『おれたちは家族だ』(精神科医で終末期医療の専門家である大原氏は自らの妻を癌で失うことになり、その終末期医療のことで、同じく医師である息子と激しく対立する)</p>
7 回	<p>【老年期の発達課題】かつては老後の人生は短かった。しかし現代人の老後は気が遠くなるほど長い。老年期の発達課題にはどんなものがあるのだろうか。</p> <p>【参考映像】NHK朝の連続TV小説『ちゅらさん』青年期に看護の道を選び、結婚・退職・育児の道を歩んでいた主人公は訪問看護師として復職する</p>
8 回	<p>【ライフヒストリー】人間の一生はライフサイクルという観点からのみでは決して解明されない。人生の一回性に注目したライフヒストリーという観点について考える。</p> <p>【参考文献】宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫、『自分史の作り方』猪狩章、情報センター</p> <p>【参考映像】江川が廃墟となった故郷、天竜川沿いの鉾山町を訪ねる(静岡県佐久間の少年時代－栃木県小山にて高校生怪物投手－東京六大学－江川事件…)</p>

9 回	<p>【家族史(家族のライフサイクル)】「ライフサイクル」は個人にのみ適用されるものではない。「家族」「一族」といった人間集団を例にとり、その盛衰、興亡の歴史を考える。</p> <p>【参考文献】『ブッデンブローック家の人々』T. マン</p> <p>【参考映像】小説・テレビドラマ『大草原の小さな家』</p>
10 回	<p>【家族史(家族のライフサイクル)②】</p> <p>【参考文献】『ブッデンブローック家の人々』T. マン</p> <p>【参考映像】大草原の小さな家の実話『ローラとローズの物語』</p>
11 回	<p>【女性のライフサイクル】人間の一生の流れは性別によっても大きく異なる。「性役割」をキーワードに、女性特有のライフサイクルの存在について考える。</p> <p>【参考文献】『ジェンダーの社会学』江原由美子、せりか書房</p> <p>【参考映像】NHKドラマ「蔵」宮尾登美子原作</p>
12 回	<p>【アイデンティティーの確立と人生】人間の一生は「自分とは何か」「自分らしく生きるとは」などを問いつける過程である。あらゆる人間科学の基礎概念である「アイデンティティー」をキーワードに人間の一生を概観する。</p> <p>【参考文献】『アイデンティティーの心理学』鏑幹八郎、講談社現代新書</p> <p>【参考映像】テレビドラマ『北の国から』</p>
13 回	<p>【思春期の発達課題】思春期の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな徳が獲得されるのかを確認する。「思春期における性の意識と行動」思春期というライフステージは近代になって認識されるようになった。「身体的性成熟」と「精神的性成熟」をキーワードに近代人の人生の難関である思春期を考える。自分の少年時代の人間形成を美しく描写し、広く国民にしたしまれている井上 靖作品をとりあげる。</p> <p>【参考文献・参考映像】『あすなる物語』井上靖『しろばんば』『夏草冬濤』井上靖</p>
14 回	<p>【東洋のライフサイクル(孔子・論語のライフサイクル)】</p> <p>【参考文献・参考映像】NHK『坂の上の雲』</p>
15 回	<p>【民俗学と現代科学とライフサイクル】: 出産、育児、子供組、若者組、成年式、結婚式、隠居、病気、葬式、墓制などの通過儀礼、行事には日本人の心意の根底にかかわるきわめて重要な課題がある。偶然にも近年の人間観では母親のお腹の中にいる胎児の頃から人生が始まっていると考える。その胎児期から乳幼児・児童期まで、きわめて簡単にではあるが、子ども時代の発達課題にはどんなものがあるのか。そして課題達成によってどんな「徳」が獲得されるのかを確認する。</p> <p>【参考文献】『日本人の一生』牧田茂、講談社学術文庫『厄年の科学』金子仁、光文社</p> <p>【参考映像】『千と千尋の神隠し』</p>

科目名	青少年と社会教育	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎聡	
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : osaki@owc.ac.jp								
教育目標と学生の学習成果	<p>【教育目標】 ライフステージにおける青少年期、社会教育における青少年育成問題について知ることを目標とする</p> <p>【学生の学習成果】 ①専門的学習成果：社会教育にたずさわる者としての青少年問題にする基本的な「知識・理解」が身につく ②汎用的学習成果：社会人として生きていくうえでの「価値観・意見・信念・態度」が身につく</p>							
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義) 担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、社会教育主事任用資格取得に特化された受講者なので対話によって各自の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。</p>					予習・復習
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。						
学習評価の方法	<p>【達成基準】 ① 青少年問題について概観できるようになっていること ② 青少年というステージに関して、社会教育的な観点から、適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること</p> <p>以上を試験における論述で証明すること。論述は以下の観点から採点する</p> <p>1. 社会科学性 (すなわち思考の客観性、社会的な関心性) 題材の選び方・題材の切り口 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。 記述内容 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>2. 人間学性 (思考の個性、主体性、内面性) 題材の選び方・題材の切り口 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満) 記述内容 (秀逸・良し・普通・やや不満・不満)。</p> <p>【評価方法】 筆記試験。1,000字の論述を課する (90%) 提出物：試験前に受講者各自の「青少年問題」 (10%) 欠席回数× (-2) 点</p>							
注意事項	参考図書は各回ごとに指示する							

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>【ガイダンス】教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告する。</p>
2 回	<p>【授業内容】社会教育とは 近年は生涯学習概念が世の中を席卷し社会教育の影がすっかり薄くなった。生涯学習と社会教育の関係について考える。</p>
3 回	<p>【授業内容】青少年というライフステージ 青少年とは何歳から何歳までのことであろうか。またどのようなことを学習するステージであろうか。</p>
4 回	<p>【授業内容】青少年の学び 学習とはやらされるのではなく自ら学ぶことである。学習によって得られる喜びや充実感が私たちの生活を豊かにする。今後は児童生徒を対象とした生涯学習・社会教育への意識啓発が必要である。</p>
5 回	<p>【授業内容】青少年とスポーツ スポーツには私たちの心や生活を豊かにする様々な力が秘められている。その取り組み方も選手としてプレーする、ファンやサポーターとして観戦する、自分の健康増進のために楽しむなど様々なスタイルがある。</p>
6 回	<p>【授業内容】青少年と文化芸術 文化芸術は私たちに感動や精神的な安らぎをもたらすとともに、生活に潤いを与えてくれる。人間は少年期に文化芸術に出会いやがて家庭で、指導者として、あるいは職業として人間関係が希薄化している現代において文化芸術の役割はますます重要になっている。</p>
7 回	<p>【青少年への学習支援】 青少年期は自立のための準備期間であるが、社会的自立のための力は学校の勉強だけでは身につけることはできない。職場体験など幅広い体験活動が必要である。</p>
8 回	<p>【青少年と公民館】 一般に公民館は講座を行ったり、会議室を貸したりする施設と思われているが、地域の特性や課題をとらえ、ネットワークづくりをする拠点としての役割も期待されている。</p>

9 回	<p>【授業内容】 青少年と図書館</p> <p>図書館は社会教育施設である。図書館の仕事は単なる資料の貸し出し業務にとどまらない。「こういうことが知りたいのだが」といった質問に答えるレファレンス業務や子どもへの読み聞かせなどの啓発活動もある。</p>
10 回	<p>【青少年と地域活動】</p> <p>平成10年に特定非営利活動促進法が施行されてから特定非営利活動法人いわゆるNPO法人が注目を集めている。こうしたNPOやボランティア団体などが安定した活動を行うためには活動環境を整備することが必要である。</p>
11 回	<p>【青少年と人権教育】</p> <p>めまぐるしく変化する社会環境は新たな人権問題を次々に派生させている。研修や講演会といった様々な機会を利用し、人権について学習することは自分自身の行き方を見直し、考えるきっかけを与えてくれる。</p>
12 回	<p>【青少年と環境教育】 エコカー減税、エコポイントなど環境課題に対応した取り組みが国をあげて行われている。環境課題への認識は充実してきたが、環境保全活動に積極的に取り組む人は多くない。</p>
13 回	<p>【青少年と郷土教育】</p> <p>自分の住む地域を暮らしやすいものにするために地域を良くする様々な活動が求められているが、活動を活発にするにはまず地域への愛着がなければならない。そのためには郷土について知り、研究することが必要である。</p>
14 回	<p>【青少年と学校教育】</p> <p>文部科学省が推進する学校支援事業は地域が学校教育を支援していくことを目的としている。これは学校を支援する大人たちの知識と経験を生かしていく試みである。</p>
15 回	<p>【青少年と家庭教育】</p> <p>家庭教育は親などの保護者がその家庭において子どもに対して行う教育のことで人格を育てる基礎となり、すべての教育の出発点である。しかしはじめから家庭教育力を備えた親はいない。親も子どもの発達に応じて学習し「親育ち」していく必要がある。</p>

科目名	社会教育行政	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野裕美
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>社会教育行政の理論的・実践的な諸問題を取り上げながら、以下のような基礎的知識の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育行政の意義や役割、組織形態 ・社会教育に関する法令 ・社会教育施設および社会教育職員の役割 ・生涯学習政策と公共性の問題 <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる項目の基礎的知識を修得する。汎用的学習成果として、基礎的知識を用いて論理的に思考する力、自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力を育成する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業は講義形式を主体として行う。 2. 定期的に小テストや課題を課し、受講生の理解を深める。</p> <p>予習・復習 1回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で示す。</p> <p>テキスト 佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房、2007年。</p>					
学習評価の方法	<p>達成基準：下記の学習成果について、「①：②：③：④：⑤＝1：1：2：1：1」の比重をかけて評価する。</p> <p>①社会教育行政の意義や役割を理解する。 ②国や地方公共団体の社会教育行政組織の体制を理解する。 ③地域に根ざした生涯学習施設のあり方および職員の役割について考える。 ④生涯学習政策と公共性の問題について認識する。 ⑤法令や統計など事実に基づく思考の基礎を形成する。</p> <p>学習評価は、試験 (60%)、小テスト (20%)、課題 (20%) によって行う。なお、遅刻 2 回につき欠席 1 回とみなし、欠席は 1 回につき減点 1 とする。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 授業中に適宜紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	オリエンテーション 本講義のルールと評価方法
2 回	社会教育行政の役割と組織 【復習】教科書 127-132 頁
3 回	行政が展開する生涯学習振興策 【復習】配布プリント
4 回	国の社会教育行政組織と所掌事務 【復習】教科書 133-139 頁、配布プリント
5 回	地方公共団体の社会教育行政組織と所掌事務 【復習】教科書 133-139 頁、142-151 頁、配布プリント
6 回	社会教育財政の意義、社会教育費 【復習】配布プリント
7 回	生涯学習と社会教育職員 【復習】教科書 153-167 頁
8 回	生涯学習と社会教育施設①～公民館～ 【復習】169-174 頁、配布プリント
9 回	生涯学習と社会教育施設②～博物館～ 【復習】教科書 177-180 頁、配布プリント
10 ・ 11 回	生涯学習と社会教育施設③～図書館～ 【復習】教科書 175-177 頁、配布プリント 【課題】ビデオ教材を視聴し、小レポートにまとめる。
12 回	生涯学習と社会教育施設④～その他、青少年教育施設、女性教育（女性関連）施設など～ 【復習】教科書 180-187 頁、配布プリント
13 回	NPO が拓く学びのネットワーク（1） 【復習】配布プリント
14 回	NPO が拓く学びのネットワーク（2） 【復習】配布プリント
15 回	試験対策 これまでの学習内容の総復習

科目名	図書館概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	石田 常 亜
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : M棟 408 (420-2666)							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>図書館の機能や、社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別、図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>よく利用している近くの公共図書館、本学あるいは他の大学図書館の見学や、利用を体験しながら、図書館についての理解を深める。 ▽</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキスト及び適宜作成したプリント、資料により進める。</p>					
	予習・復習	授業の冒頭、前回の講義内容を復唱しながら、新しい講義へと進む。					
	テキスト	塩見 昇「図書館概論」(新訂版) 日本図書館協会					
学習評価の方法	全講義終了後、単位認定のための筆記試験を実施する。						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>日本図書館協会図書館政策特別委員会「公共図書館の任務と目標 解説」(改訂版増補) ▽日本図書館協会 ▽</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館学の科目」に関する、各科目授業の進め方について ▪ 図書館法の概要、法的基盤について ▪
2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・館種別図書館の現状と動向について
3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の基本要素と機能 ▪ (1) 図書館資料、予算 ▪
4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の基本要素と機能 ▪ (2) 図書館職員 (3) 図書館施設 ▪
5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の歴史：日本、外国 ▪
6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に関する諸基準：日本、外国
7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の理念 ▪ (1) 図書館の自由に関する宣言
8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の理念 ▪ (2) 図書館長の倫理綱領 ▪

9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館の成立と展開 ▪ 公立（共）図書館の任務と目標
10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の公共図書館、文庫活動
11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・類縁図書館とのネットワーク ▪ （1）学校図書館 ▪
12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・類縁図書館とのネットワーク ▪ （2）大学図書館 （3）専門図書館 （4）その他 ▪
13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館との連携
14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員の役割、資格
15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の今後の課題、電子図書館

科目名	ボランティア活動	授業回数	15	単位数	2	担当教員	坂元 昌
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) :							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>ボランティア活動に関わる際に必要となる理論を身につけることを目標とする。 実際に展開されるボランティア活動の事例について議論することにより、現代社会が抱える課題と、その解決に向けてのボランティアの在り方を探る。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>① ボランティア活動の意義と問題点を理解できる。 ② テーマにそった、議論ができる。</p>						
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、ボランティア活動の事例の分析とディスカッションにより進める。 授業では、「助けるー助けられる を考える」「施しとボランティア」「開発援助とボランティア」「ボランティア・コーディネート」のテーマを設定し、それぞれのテーマごとに具体的なボランティア活動についての議論や発表を行う。 毎回授業の終わりに、小レポートを作成する。 受講生には発表を課す場合がある。</p>				
予習・復習		<p>授業に関連するボランティア活動について、調べ、まとめること。 予習・復習の詳細については、授業で指示する。</p>					
テキスト		<p>指定なし</p>					
成績評価の方法	<p>① 小レポートの内容 (30%) ② 期末試験の成績 (70%)</p> <p>以上2点から評価する。</p>						
注意事項	<p>参考文献は、授業のなかで随時紹介する。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【イントロダクション】</p> <p>授業の目的と、授業の流れについて説明する。 ボランティアについてのイメージについて議論し、ボランティアについて考える導入とする。</p>
2 回	<p>【ボランティアとは】</p> <p>ボランティアに関する基本的な概念を整理し、日本におけるボランティアの歴史について概観する。</p>
3 回	<p>【ボランティアの有効性】</p> <p>なぜボランティアなのか、社会におけるボランティアの必要性と有効性について考える。</p>
4 回	<p>【ボランティアの課題】</p> <p>ボランティアは有効であるとされる一方、その問題点が指摘される。 ボランティアの課題と可能性について概観し、議論する。</p>
5 回	<p>【「助ける・助けられる」を考える①】</p> <p>実際のボランティア活動の例を紹介し、助ける・助けられる関係からボランティアの有効性と課題について具体的に考える。</p>
6 回	<p>【「助ける・助けられる」を考える②】</p> <p>障害者支援・障害学生支援等の事例から、助ける・助けられる関係の在り方について議論する。</p>
7 回	<p>【「助ける・助けられる」を考える③】</p> <p>障害者支援・障害学生支援等の事例から、助ける・助けられる関係の在り方について議論する。</p>
8 回	<p>【施しとボランティア①】</p> <p>施しとボランティアについて、「発展途上国」と呼ばれる国への援助の背景にある文化的価値観についての議論から考える。</p>
9 回	<p>【施しとボランティア②】</p> <p>施しとボランティアについて、「発展途上国」と呼ばれる国への援助の背景にある、文化的価値観についての議論から考える。</p>

10 回	<p>【開発援助とボランティア①】 国際協力や開発援助など、国際的なボランティア活動の例を紹介し、その成果と課題について議論する。</p>
11 回	<p>【開発援助とボランティア②】 国際協力や開発援助など、国際的なボランティア活動の例を紹介し、その成果と課題について議論する。</p>
12 回	<p>【ボランティア・コーディネート①】 ボランティア活動の計画から実施までをコーディネートするシミュレーション演習を行う。</p>
13 回	<p>【ボランティア・コーディネート②】 ボランティア活動の計画から実施までをコーディネートするシミュレーション演習を行う。</p>
14 回	<p>【総括ディスカッション①】 様々なボランティア活動の特徴と課題を理解した上で、ボランティアが社会に果たす役割について改めて検討する。</p>
15 回	<p>【総括ディスカッション②】 様々なボランティア活動の特徴と課題を理解した上で、ボランティアが社会に果たす役割について改めて検討する。</p>

科目名	社会福祉	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾 冀
質問受付の方法 : 適宜、授業終了後は再度受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる5項目の社会福祉の基本を修得し、幼児教育専門職として不可欠の社会福祉に関する基礎知識と支援理念を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：幼児教育専門職としてのみならず社会人としてもまた家庭人（子どもの親）としても、広い視野で社会を見据え社会の発展に寄与する人間として成長する。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストを中心に授業を進めていく ・新聞やテレビ等の社会福祉欄に関心を持つよう、媒介物を実際に解説することによって学生の意識を高める。 ・授業時間外に取り組むレポート（新聞の切り抜きとコメント）を課す。 <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って授業に臨ませる。 ・復習：主として、小テストにて重要な福祉用語の理解を深める。 <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤木正典・平松正臣編著『改訂 社会福祉論』建帛社 					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習内容についての理解度を期末テストで評価する他、提出物も評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点についての理解度。 ・社会福祉の制度や実施体系等についての理解度。 ・社会福祉における相談援助についての理解度。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについての理解度。 ・社会福祉の動向と課題についての理解度。 <p>学習評価は①小テスト 16点（授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する） ②課題 16点（新聞の切り抜きの提出期限及びレイアウトとコメント内容） ③期末テスト 68点 ①+②+③=合計 100点</p>						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <p>他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書類は、本授業でも有用である。</p> <p>*授業の始めと終わりの挨拶励行、私語を慎む、遅刻をしない等のマナーを大切にする。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>1. 現代と社会福祉（オリエンテーションの後に）</p> <p><講義> 21 世紀の福祉の目標は、高齢化が活力に結びつく明るい社会を構築するという基本理念のもとに、社会全体のシステムを少子高齢社会にふさわしいものにつくり替えていくこととなっている。このことを子ども家庭支援の視点を入れて理解させる。</p> <p><復習> 21 世紀の福祉の課題として以下の用語や概念の理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から、人権尊重の福祉社会実現の流れを見つける。 <p><予習> 第 1 章を読んでおく。</p>
2 回	<p>2. 社会福祉の基礎理解</p> <p><講義> 憲法 25 条をもとに、生存権の保障に至る歴史や、広義の社会福祉と狭義の社会福祉の概念を解説する。</p> <p><学習成果> 福祉の源は人間愛と連帯感であることを知り、各自が各自の優しさを育む。</p> <p><予習> 第 2 章を読んでおく。</p> <p><課題> 福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え、提出させる。</p>
3 回	<p>3. 社会福祉の歴史</p> <p><講義> 我が国における社会福祉の歴史について解説し、欧米の福祉よりも古い歴史を知らせながら、近代の欧米の福祉から学んだ成果の定着過程を理解させる。</p> <p><学習成果> 福祉という言葉は新しいが、福祉の精神は古くから息づいていたことを知り、現代社会での課題に目を向けることの大切さを学ぶ。</p> <p><復習> 歴史的な福祉事業家の業績を整理し、郷里の偉人を調べてみる。</p> <p><予習> 第 3 章を読んでおく。</p>
4 回	<p>4. 社会福祉の法律と制度</p> <p><講義> 福祉 6 法が制定された歴史的背景について解説し、それぞれの法律の意義を理解させる。また、法で定められたそれぞれの行政機関の役割を理解させる。</p> <p><学習成果> 福祉 6 法が制定された順番こそが時代の緊急課題であったことを理解する。</p> <p><復習> 福祉 6 法の名称とそれぞれの法に関係する援護制度の内容と背景を理解する。</p> <p><予習> 第 4 章を読んでおく。</p>
5 回	<p>5. 貧困と社会福祉</p> <p><講義> 貧困問題が福祉の中核であり、最近の生活保護制度の動向を説明し、制度の適正な実施の仕組みと課題を考えさせる。</p> <p><学習成果> 貧困の連鎖を絶つことの難しさを知りながら、保育士としての支援には、家庭の実情に目を向けながら子どもと家庭の支援に当たることの大切さを学ぶ。</p> <p><復習> 国家による公的扶助の代表が生活保護であるが、その動向と課題を考えて見る。</p> <p><予習> 子どもの貧困という社会現象にはどんな具体例があるか関心を持っておく。</p>
6 回	<p>6. 子どもと家庭の福祉①</p> <p><講義> 児童福祉法制定の背景を戦後の歴史として学び、日本国憲法の生存権や基本的人権が子どもの福祉を支えていることを理解させる。そして、現代の子ども家庭福祉問題を社会病理としたとき、保育士の果たす役割の大切さを自覚させる。</p> <p><学習成果> 子ども家庭支援や保育業務の法的根拠が児童福祉法にあることを知る。</p> <p><復習> 子どもの最善の利益とは何か、各自の考えをまとめてくる。</p> <p><課題> 児童虐待や子どもの貧困など児童福祉をテーマの新聞の切り抜きを提出する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

7 回	<p>6. 子どもと家庭の福祉②</p> <p><講義>子ども家庭福祉の実施機関の体制を説明し、そこで働く人々の役割を理解させる。</p> <p><学習成果>子ども家庭福祉の現場の状況を知ることは、就職活動にも貴重な情報である。</p> <p><復習>2年生での実習に備え、身近にある児童福祉施設の情報を集めておく。</p> <p><予習>児童問題に常に関心を持っておく。</p>
8 回	<p>7. 高齢者福祉</p> <p><講義>高齢社会の進行状況と少子化との関連性を説明し、長期的展望で見ると日本が大変な状況であることを理解させる。やがては自分自身の問題となる高齢者の生活実態について説明し、健康や家族関係や経済面についての対策を考えさせる。</p> <p><学習成果>老人福祉法のお世話になる割合を少しでも減らす努力は今からやらねばならないと気づく。社会の発展に貢献してきた老人を敬愛する精神を育て、実践する力をつける。同時に、家庭での子育てと家庭での老後が無関係でないと気づかせる。</p> <p><復習>介護問題の現状と課題を身近な事例から考えてみる。</p> <p><予習>50年後の自分の理想像を描き、今やるべきことを考える。</p>
9 回	<p>8. 障害者福祉①</p> <p><講義>三障害の定義と概念を説明し、具体的な障害像をイメージさせ、障害の種類ごとに撮られている福祉対策の現状と課題を理解させる。</p> <p>主に身体障害者福祉法による福祉制度について説明する。</p> <p><学習成果>保育現場における障害児保育の課題や支援のあり方を考える力がつく。</p> <p><復習>幼児の知的障害や身体障害にどんな福祉支援があるか書き出してみる。</p>
10 回	<p>8. 障害者福祉②</p> <p><講義>知的障害の定義や程度を説明し、知的障害者福祉制度の現状と課題を考えさせる。</p> <p>旧来の障害の三分類以外の、発達障害についても説明を加える。</p> <p><学習成果>知的障害児や発達障害児とのつきあい方を学び現場で応用できる力を養う。</p> <p>保育現場には集団生活に困難を来す子どもが多く、この学びは実用的である。</p> <p><予習>子どもの発達に及ぼす大人（保育者）の関わり方の重要性について考えてみる。</p> <p><復習>発達障害に関する専門書を一冊は読んでみたい。</p>
11 回	<p>9. ひとり親家庭の福祉・女性福祉</p> <p><講義>ひとり親家庭の現状を理解させ、円満な家庭の大切さを知らしめる。</p> <p>母子及び寡婦世帯への福祉施策について解説する。</p> <p>DVなどによる要保護女性の福祉と、婦人相談所の現代的使命を解説する。</p> <p><学習成果>ひとり親になる原因は離婚が圧倒的に多く、ひとり親にならないような結婚の大切さを自覚する。ひとり親家庭の保育児童への留意点を学び愛着形成に資する。</p> <p><復習>DV被害者の連れている児童は、被虐待児であることの根拠を学ぶ。</p> <p>ひとり親となる原因を少なくするために自分自身ができることは何かを考える。</p>
12 回	<p>10. 社会福祉相談援助技術</p> <p><講義>社会福祉における相談援助技術の種類とそれらの発展した歴史を説明し、社会福祉援助に関して利用者の保護と権利擁護に関わる仕組みを解説する。</p> <p><学習成果>保育士として保護者支援に当たるとき、これらの援助相談技術は役立つ。</p> <p><予習復習>今までのノートを読み直してみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p>11. 地域福祉</p> <p><講義> 地域における篤志家の慈善事業が源流であった地域福祉が公的サービスとして日本に定着した経緯と、共生社会の実現への理念と課題を解説する。</p> <p><学習成果> 地域福祉は行政を支える住民の活動があって初めて実を結ぶことを知る。</p> <p><復習> 身近な地域にどんな住民参加型の福祉活動があるかを調べてみる。</p>
14 回	<p>12. 医療福祉</p> <p><講義> 医療福祉の概念説明をしながら、医療福祉の歴史を振り返り、現代社会にとってこの医療ケースワークの重要性を解説する。</p> <p><学習成果> 医療内容が高度化してくれば、それに平行して医療技術以外の医療サービスが必要になり、両者のバランスで患者と家族が安心して医療を受けられることを知る。</p>
15 回	<p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全 15 回の授業内容の要点を再度説明し、各章や單元ごとに質疑応答。 ・ 法制度、理念等授業中に指摘したポイント及びテストの出題傾向について説明。 ・ 提出物の漏れがないように再度チェックさせる。 ・ 幼児教育の専門家になると同時に、ここでの学びを我が子の育児や家庭の幸せに活かしてもらいたい。

科目名	教育原理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田 修兵
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。本科目では、教育の基本的概念や教育の理念、歴史や思想についての歴史的展開を理解するとともに、日本をはじめとした教育や学校がどのような変遷を経てきたのかを理解することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：価値観の多様性を理解し、自分なりの意見を持つ姿勢を獲得する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組む課題を課す。 					
	予習・復習	<p>予習事項 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項 毎授業回後に復習を求める。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p>					
	テキスト	池田隆英・楠本恭之他編『なぜからはじめる教育原理 [第2版]』建帛社、2018。					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果について、その獲得度合を等分に評価する。</p> <p>①教育の意義・目的、基礎的概念を理解する。</p> <p>②教育の思想及び歴史の基礎を理解する。</p> <p>③現代日本の教育制度の基礎を理解する。</p> <p>④現代教育の諸問題について知り、科学的に思考する方法及び態度を修得する。</p> <p>学習評価は、小テスト (20 点)、課題 (10 点) 及び期末試験 (70 点) により実施する。 ※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点 (1～5 点を目安とする) する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989。</p> <p>大田堯『教育とは何か』岩波新書、1990。</p> <p>苫野一徳『はじめての哲学的思考』ちくまプリマー新書、2017。</p> <p>※その他、授業内で「読書案内」を配布するので参照されたい。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>1 回</p>	<p><オリエンテーション、教育学（哲学）的思考> ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、人間や教育について思考する際に求められる思考様式の4つ「分けずに考える」「相対的に考える」「当たり前を外して考える」「因果性にとらわれずに考える」を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法の確認をする。 ・テキスト第1章（pp. 1-8）で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解しており、思考様式4つについて自分なりに説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：思考様式4つについて、テキストやノートを見ながら確認する。</p>
<p>2 回</p>	<p><教育の基本概念①> ○本時の目標 「教育」を成立させる要因としての「人間」そのものについて、ポルトマンの「生理的早産」説によって、人間の「可塑性」と「依存性」という特徴を理解する。さらに、「依存性」から導かれる「養護」の必要性、「可塑性」から導かれる社会や文化との相互関係について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第2章（pp. 9-18）で解説する。 ○本時の学習成果 ポルトマンの「生理的早産」と、人間の「可塑性」及び「依存性」という特徴を説明できるとともに、それらが人間の社会や文化と相互関係にあることを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「生理的早産」説と「可塑性」及び「依存性」、それらの相互関係について自分なりにまとめてみる。</p>
<p>3 回</p>	<p><教育の基本概念②> ○本時の目標 人間が発達していくためには「遺伝」と「環境」の相互作用が必要であることを理解し、人間発達についての基本的な考え方である「発達段階」概念について学ぶ。その際、子供と教員（教師）や家庭、学校がどのように関連しているかも含めて確認する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章第1節・第2節（pp. 19-21）で解説する。 ○本時の学習成果 人間が発達するうえで「遺伝」と「環境」が相互的に重要な役割を有していることを理解していると同時に、その人間の周囲にある「環境」である教員や家庭、学校がどのように関連しているかについて確認している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「遺伝」と「環境」が人間の発達にどのような関係があり、人間の周囲の「環境」（教員や家庭、学校）がどのように関連しているか、テキストやノートをもとに整理してみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>4 回</p>	<p><教育の基本概念③> ○本時の目標 子どもが環境に適応していくこと、「社会化」の概念について理解する。さらに、その際、同調と生成の両面があることを確認する。そして、教育対象としての子供を理解するために必要な、臨床的な理解のあり方を確認する。 ○本時の活動 ・テキスト第3章第3節・第4節 (pp. 22-26) で解説する。 ○本時の学習成果 「社会化」の概念について、家庭や学校などという「社会」などを具体的にイメージしながら理解している。そのうえで、教育対象としての子供を理解するための臨床的な理解のあり方を確認している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「社会化」や臨床的な理解について、テキストやノート見ながら自分なりに説明してみる。</p>
<p>5 回</p>	<p><教育の歴史と思想①> ○本時の目標 教育の思想や歴史を学ぶ意義について理解したうえで、およそ17世紀以前の西洋を中心とした教育の思想の歴史を概観することを通して、多様な教育の理念のあり方があることを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第4章第1節・第2節・第3節 (pp. 27-30) で解説する。 ○本時の学習成果 教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、子供や学校、家庭に関する教育の思想を理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 ・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめてみる。</p>
<p>6 回</p>	<p><教育の歴史と思想②> ○本時の目標 前回に引き続き、西洋を中心とした教育思想の歴史を概観することを通して、ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベル、ヘルバルト、デューイらの思想と、その社会背景及び現代教育への影響について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第4章第4節・第5節・第6節 (pp. 31-38) で解説する。 ○本時の学習成果 教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、近代教育の展開が今日の子供や学校、家庭に関する教育にどのように影響しているか理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 ・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、現代の教育との関係も意識しつつ、自分なりにまとめてみる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

7 回	<p><教育の歴史と思想③></p> <p>○本時の目標 学校が意図的な教育の場であることを確認し、その始まりを理解する。そして、学校が制度化される過程を、近代において学校が普及した3つの背景、思想的背景、国家的背景、産業的背景、さらに家庭をも視野に入れつつ理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(第1回)：<教育の歴史と思想①②>の内容に関するテスト。 ・テキスト第5章第1節(pp. 39-42)で解説する。 <p>○本時の学習成果 学校がどのような背景のもと制度化されるようになってきたのかについて、3つの背景及び家庭の状況によって理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：小テストの範囲のテキストやノートなどを確認しておく。 テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校の制度化の過程について、テキストやノートで整理し、自分なりに説明してみる。
8 回	<p><教育の歴史と思想④></p> <p>○本時の目標 前回授業を振り返りながら、日本の学校の始まりを確認する。次に、明治以降の教育制度の変遷を公教育の原則である「義務制」「無償制」「中立性」の諸点及び法令を中心に理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章第2節(pp.42-46)で解説する。 <p>○本時の学習成果 日本において、学校がどのような背景のもと制度化されるようになってきたのかについて、公教育の原則である「義務制」「無償制」「中立性」の諸点及び法令を中心に理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：公教育の原則や法令をもとに、日本における学校教育制度の変遷について、テキストやノートを見ながらまとめてみる。
9 回	<p><教育の制度①></p> <p>○本時の目標 まず、「日本国憲法—教育基本法—学校教育法」という現代日本の教育制度の基本構造を学校の種類によりながら、それぞれの目的を概観する。次に、各学校における教育課程の基準となる「幼稚園教育要領」や「学習指導要領」の法的性格を確認し、その変遷を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章(pp. 47-56)で解説する。 <p>○本時の学習成果 現代日本における教育制度及び教育課程制度について、その目的や歴史的変遷を説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：日本の教育制度や教育課程制度についてテキストやノートを見ながらまとめ、「幼稚園教育要領」などの法的性格とその変遷について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容

10 回	<p><教育の制度②></p> <p>○本時の目標 前回授業における教育課程制度の説明を振り返りながら、各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価について理解する。その際、小学校就学以後の教育と、それ以前の教育・保育の共通点と相違点を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>レポート</u>：「学校問題に関する意見」についての説明をする。 ※提出日について本授業内で指示する。 ・テキスト第7章・第8章（pp. 57-78）で解説する。 <p>○本時の学習成果 各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価についてそれぞれの共通点や相違点をあげながら説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価についてテキストやノートを見ながら再度確認する。
11 回	<p><教育の制度③></p> <p>○本時の目標 子どもの発達の多様性を確認した上で、現代日本における特別支援教育について、歴史や背景、現代的課題によって学ぶ。さらに、学校における教育実践のあり方について、その原理と課題を家庭や社会とも比較しながら確認する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小テスト（第2回）</u>：<教育の制度①②>の内容に関するテスト。 ・テキスト第9章（pp. 79-88）で解説する。 <p>○本時の学習成果 特別支援教育について、家庭や社会との比較のなかで、歴史や経緯、現代的課題などについて説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、特別支援教育についての理解をさらに深める。
12 回	<p><教育の制度④></p> <p>○本時の目標 教員の資格取得に関する制度と保育士資格について理解する。さらに、教員の職務と服務、採用と研修、免許更新制について、根拠法令を確認しながら、教員の難しさとやりがいを考える。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章（pp. 89-98）で解説する。 <p>○本時の学習成果 教員の資格取得に関する制度と保育士資格や教員の職務と服務、採用と研修、免許更新制について、根拠法令をもとに理解している。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：制度や法令などをテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめてみる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p><教育の制度⑤></p> <p>○本時の目標 教育行政・経営、多文化教育、生涯教育について、「教育委員会」「PDCA サイクル」「学校評価」、「教育を受ける権利」「市場原理」「グローバル化」、「高等教育制度」「生涯学習社会」「キャリア教育」などにより概観し、理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第11章・第12章・第13章 (pp. 99-127) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育行政・経営、多文化教育、生涯教育について、授業内で解説したキーワードをもとに、考えることができる。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、教育行政・経営、多文化教育、生涯教育についての理解を深める。</p>
14 回	<p><まとめ①></p> <p>○本時の目標 学校教育においてさまざまな問題があることを確認し、その上で、なぜ学校では問題が起きるのか、その理由を社会における学校の位置づけから考えてみる。さらに、児童・生徒の生活上の指導の原理を確認し、教員としての基本姿勢を学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第14章 (pp. 127-136) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 学校教育においてさまざまな問題について自分なりに考え、児童・生徒の生活上の指導の原理を確認し、教員としての基本姿勢を理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校教育の問題について自分が教員という立場からテキストやノートを見ながら考えてみる。</p>
15 回	<p><まとめ②></p> <p>○本時の目標 本科目における学びを振り返りながら、人間と社会の関係、なかでも教育の意義と課題について学ぶ。その際、自らの人生を振り返り、常に反省と改善が求められることを確認する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト第15章 (pp. 137-144) で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の学習成果 人間と社会の関係、なかでも教育の意義と課題について学び、自身の反省と改善の重要について知る。</p> <p>○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

科目名	社会心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法 e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp OH : 金曜日3限 M棟 409号室							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目では、社会的行動に関する基礎的な研究知見を学びながら、人の社会的行動について「あるある」「なるほど」と納得できる学びを目指す。具体的には、以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。</p> <p>① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。 ② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ④ 社会人として人との関わりに必要な論理的思考力を習得する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p><専門的学習成果> 教育目標に掲げる①, ②, ③の項目に関する研究知見を習得する。</p> <p><汎用的学習成果> 教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに基づいて進め、集団心理をより理解するために、グループワークを実施する ・必要に応じて心理テストを行い、自己理解の一助とする。 ・毎回、授業後には振り返りタイムを設定する。 					
教育方法	予習・復習	<p>予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習をして授業に臨むこと。 復習事項：基本的には授業で使用したテキスト内容の見直しをすること。また、参考図書等で確認すること。</p>					
	テキスト	<p>使用テキスト：堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版，2013年。 必要に応じてプリント資料を配布。</p> <p>*授業用に冊子ノートを準備し、毎回、予習・復習をまとめておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。</p>					

学 習 評 価 の 方 法	<p>評価配分に関して</p> <p>専門的学習成果と汎用的学習成果について、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の評価配分および評価比重は以下の通りである。</p> <p><専門的学習成果></p> <p>専門的学習成果の評価配分は 70 点である。評価配分 70 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果の評価比重は、おおよそ「①：②：③＝15 点：15 点：40 点」である。</p> <p>① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>汎用的学習成果の評価配分は 20 点である。</p> <p>専門的学習成果に関して、授業で学んだ知識の理解度を図るために、理解度確認テストを行う。この評価配分は 10 点である。総じて、専門的学習成果 70 点、汎用的学習成果 20 点、理解度確認 10 点とし、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p> <p>評価ツールに関して</p> <p><専門的学習成果></p> <p>専門的学習成果の評価配分の合計 70 点は学期末に行う定期試験で測る。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>汎用的学習成果の評価配分 20 点のうち 10 点は授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した社会人として人との関わりに必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた課題を課す。残り 10 点はノート提出状況やその内容、授業中の態度で測る。</p> <p>毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。</p> <p><授業内容の理解度></p> <p>理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う復習テストで測る。</p>
注 意 事 項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池上知子・遠藤由美共著『グラフィック社会心理学第 2 版』サイエンス社，2009 年。 ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書，2015 年

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】 本科目の講義内容・進め方・成績評価の方法・受講ルールに関する説明を行う。</p> <p>【はじめに】 ・受講学生に関心のあるテーマや事例を取り上げ、そこに内在する集団心理について議論する。→社会問題に内在する集団心理的な問題 社会心理学とは。 予習事項：テキストの目次について目を通してくる。</p>
2 回	<p>【社会の中における個人の心理①】 ・自己概念（自己知識）→自分の理解の仕方や内容について学ぶことによって、自己理解をより深めるための一助とする（心理テスト）。 予習事項：見えていない自分についていろいろ考えてくること。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
3 回	<p>【社会の中における個人の心理②】 ・自己評価→自分自身に対する評価はどのくらいか。また、その評価に影響を与える要因について学ぶことによって、より適応的な自己評価のあり方を理解する。 予習事項：最近の自分を振り返り、自分を評価してくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
4 回	<p>【対人認知・対人行動①】 ・対人認知→相手の理解の仕方やその理解が歪む時のメカニズムを学ぶことによって、他者をより正確に理解し、円滑な対人関係を築くための一助となる。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
5 回	<p>【対人認知・対人行動②】 ・対人魅力→人に魅力を感じる心のしくみについて学ぶことによって、日常の対人魅力の心理メカニズムを理解する。 予習事項：遠距離恋愛が上手いか上手くないか。それぞれの原因を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
6 回	<p>【対人認知・対人行動③】 ・原因帰属→自分や他者の行動を起こす原因がどのように規定されるのかを学ぶことによって、行動とその原因との関係を理解する。 予習事項：遅刻をした時の言い訳を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
7 回	<p>【第1回復習テスト】 第2回～第6回までの5回分の内容について復習テストを実施する。</p> <p>【集団の中の人間①】 ・人間関係の様相→人と人が関わるという基本的問題について学ぶことによって、人間という存在について理解するための一助とする。 予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返ってくる。 復習事項：人が関係性の中で生きている意義を認識する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>【集団の中の人間②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの他者によって影響する自分の行動（1）—集団のダイナミクス— <p>→集団特徴（例，社会的規範，同調）について学ぶことによって，円滑な集団活動を行えるための一助とする。</p> <p>予習事項：授業で指示する。</p> <p>復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。</p>
9 回	<p>【集団の中の人間③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの他者によって影響する自分の行動（2）—他者存在の影響— <p>→集団特徴（例，社会的促進・抑制，社会的手抜き）について学ぶことによって，円滑な集団活動を行えるための一助となる。</p> <p>予習事項：何か作業する時，そばに誰かいるとどんな経験をしたか思い出してくる。</p> <p>復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。</p>
10 回	<p>【集団の中の人間④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団意思決定→みんなで何かを決める時，何か問題を解決する時のリスクについて学ぶ。 <p>これによって，集団活動におけるリスク軽減策を理解する。</p> <p>予習事項：何かを個人で決める時と集団で決める時で，どんな違いがあるのか考えてくる。</p> <p>復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。</p>
11 回	<p>【集団の中の人間⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ→効果的なリーダーシップについて学ぶことによって，指導者としてのあり方を理解する。 <p>予習事項：自分が尊敬できる人物を1人挙げ，その選んだ理由を考えてくる。</p> <p>復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。</p>
12 回	<p>【集団の中の人間関係①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己表現のワーク→自分の自己表現の特徴を知り，課題を発見する。 <p>予習事項：授業で指示する。</p> <p>復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。</p>
13 回	<p>【集団の中の人間関係②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな自己表現ワーク→自分も他者も大切にできる自己表現について学ぶ。 <p>予習事項：配付資料を熟読してくる。</p> <p>復習事項：アサーティブな表現を考えてくる。</p>
14 回	<p>【第2回復習テスト】</p> <p>第8回～第13回までの7回分の内容について復習テストを実施する。</p> <p>【集団の中の人間関係③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな自己表現→ワークを体験して，自己課題を達成すべく努める。 <p>予習事項：復習テストに備えて勉強しておく。</p> <p>12・13回の復習をしておく。</p>
15 回	<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を振り返り，必要なら補足する。 ・定期試験の出題内容について知る。